

# 折高AL通信

福岡県立折尾高等学校  
「新たな学び」推進委員会発行  
令和4年7月7日 Vol.19

本年度第1学年より、新学習指導要領が年次進行で実施されます。各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の3つの柱（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）で再整理され、「観点別学習状況の評価」をより一層充実することが求められています。これはつまり、「これまで通りの授業を変える」ことを意味しています。これまでの授業をデザインし直すことは、はじめはとても負担に感じることもかもしれません。しかし、ICT機器の充実、Wi-Fi環境の整備、これまでの先生方の豊富な授業実践等を効果的に共有し、自身の授業にほんの少し、それらのスパイスを足していくことで、少しずつ変化が現れてくるはずで、先生方の不断の授業改善を通して、折尾高校生の資質・能力をさらに伸ばしていきましょう。

「目標－指導－評価」の一体化を実現するために、授業を<sup>注1)</sup>「逆向き設計」して考えることが参考になりそうです。授業のゴールを決め、そこから逆算して授業を構成していきます。併せて、評価方法も指導前に考えておきます。

ゴールを達成するために、生徒が思考・判断・表現する場面を意図的に取り入れたパフォーマンス課題（現実課題と結びつける）を単元の途中や後半に設定し、ルーブリックやリフレクションシート等を活用して、生徒の学びの深さや理解度等、生徒の変容を見取ることが可能になります。

その結果を自身の授業改善につなげたり、フィードバック等を通して生徒の学習の改善につなげたりすることで、「目標－指導－評価」の一体化を実現することが重要です。

また、主体性の評価については、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、思考力、判断力、表現力等を身に付けるために粘り強い取組を行い、その過程で自らの学習を調整したりする側面を評価することが重要だとされています。

単元計画（参考）

時	学習活動	評価
2	パフォーマンス課題の提示 (単元導入時)	ルーブリック (評価規準)
3	パフォーマンス課題の実現に向けて、さまざまな材料 (知識や技能等) を獲得させることが必要になります	
2	パフォーマンス課題	ルーブリック (評価基準)
1	学習ゴール	リフレクション

※パフォーマンス活動（課題）とは、プレゼンテーション、作文、小論文、朗読、レポート  
展示物、ポスター作成、実技、実験の計画・実施・報告書が挙げられます

例えば、昨年度の英語科の授業実践を例に挙げると、授業導入時に「パフォーマンス課題」を提示しておき、学習のまとめとしてグループで英作文を作成させ、グループスライドを活用して発表につなげました。

単元：Lesson8 Motala and Landmines [タイ国にて地雷で脚を失った象（モタラ）の話]

導入時にパフォーマンス課題として「What can we do to make the world a better place?」を示しておき、授業を行いました。グループ活動に入る前に、生徒にルーブリックを提示し何を評価するか等の基準を示しました。



世界平和実現に向けて  
ジャムボードで考えを交流

スライド（3～4枚程度）を作成させ、発表をより分かりやすくします

授業の中で、ルーブリック等を活用した評価を入れる場面設定は、教師が意図的・計画的に入れる必要があります。しかしながら、評価のための評価になることがないように、学期に1～2回程度と割り切ってパフォーマンス課題を実施することがよいのではないかと思います。教科内で協議を重ね、無理なく続けられるよう工夫していくことが大切です。

参考資料

注1) 理解をもちたすカリキュラム設計 (G.ウィギンズJ.マクタイ著 西岡昭恵訳)

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(文科省 国立教育政策研究所)